

立教189年
活動方針

全ようぼくおぢばがえり

〜網走に繋がるようぼく〜

810名のおぢばがえり〜

教祖140年祭の年 立教189年 4月
教祖誕生祭 18日 10時
婦人会総会 19日 9時半

〜1人でも多くの方をお誘いして『おぢばがえり』〜
〈空港送迎バスのご案内は7ページをご覧ください〉

立教189年網走大教会活動目標
全ようぼく おぢばがえり

〜1月：119名のようぼくがおぢばがえり〜

第100回青年会総会

〜10月27日 午前10時 本部中庭集合〜



大教会のHPがご覧になれます！

月報には掲載されない写真もいっぱいです！

ぜひ一度ご覧下さい♪

網走月報

発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会二月月次祭

大教会2月の月次祭は、12日午前9時30分から大教会長祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様の御守護に御礼申し上げた後、「先月二十六日には網走に繋がる大勢の信者が教祖百四十年祭の祭典を拜させて頂きましたこと心より御礼申し上げます。おぢば帰りをさせて頂いたものや、地元で遥拝をさせて頂いたものに、教祖が親心をお掛け下さいましたこと、重ねて厚く御礼申し上げます。尚、本年一月二十六日より十二月三十一日迄『全ようぼくおぢば帰りを大教会の活動目標に掲げ、網走に繋がる用木が皆、おぢばに心を向け足を運んで頂けるよう部内教会長を芯に一丸となっておぢば帰りの推進に力を入れてさせて頂く所存でございます。』と奏上した。

その後座りづとめ・十二下りのてをどりがつとめられ、参拝者は共に勇んでみかぐらうたを唱和した。

神殿講話

細木 善信 役員



神殿講話全文

終了しました。

この三年、網走大教会につながる皆様方も、「諭達第四号」を心に置き、教会で定めた心定め、また、各々が定めた心定め、達成に精一杯におつとめ頂きまして、共々にご苦労様でした、と申し上げさせて頂きます。

網走大教会、年祭活動、頑張ったか比較するのは、難

しいですが、調べてみました。この3年間の比較は大変なもので、昨年、仕上げの年の人のご守護の成果を見てみました。「みちのとも」というお道の機関紙がありまして、最終ページに人の統計表というページがあります。全国には、159か所の大教会がありまして、網走大教会は、一番おぢばから遠い大教会です。部内教会は33カ所、網走大教会より少ない部内教会数の大教会は9カ所。後ろから10番目の大教会です。教人数は339名で、後ろから39番目。そこからすると、おぢばから遠く、おぢばがえりが難しい大教会で、部内教会は少なく、信者の数も少ない、弱小大教会だと判断できます。その弱小大教会の昨年の人の成果は、初席者26名、おさづけの理拝戴者14名、修養科修了者21名、教人4名のご守護を頂きました。「みちのとも」の統計表から、その数が全体の何位くらいに位置するのかと不謹慎にも調べてみました。

初席者26名は全体の73位、全体の半分は80位ですから真

先月、1月26日、教祖140年祭が厳かに執行され、心定め

の達成にとめて参りました年祭活動、三年千日の活動が

ん中から少し上、おさづけの理拝戴者14名は66位、修養科修了者21名は13位、教人登録者4名は35位。えっ、頑張ったじゃない！ そう、頑張ったんです。それぞれの教会が心定め達成に向けて努力させて頂いたと思います。確かに達成に向けての仕掛けはありました。

振り返りますと、教会の先達である会長夫妻が喜ばなければ、活動は盛り上がりません、喜び日記を付け、毎月教会長夫妻のねりあいでの喜びを公表し合った。おたすけ委員会を組織しておちばがえり、初席者、ようぼくのご守護を推進。毎月29日を大教会一斉活動日として、ひのきしん、にをいがけ活動を行い、9月には布教部主催で部内同士、行き来して交流布教を行った。役員会、准役員会が主体となって、修養科事前研修会、事後研修会を開催して、ようぼく、修養科生の丹精につとめた。また、新しくようぼく誕生会を開催して、新

ようぼくの丹精につとめさせていただきます。

て頂きました。

昨年、仕上げの年には、諭達の6項目の実動、目標10万件を提唱し、信者の先々まで年祭活動につとめて頂き、何と目標の3倍近い30万件に迫る成果を見せて頂きました。

3年間の目まぐるしい活動に対して、大教会長様を芯に部内一丸となって進ませて頂いたこと、皆様方のご丹精ご努力に深く感謝申し上げます。教祖にもお喜び頂けたと思います。有難うございました。

年祭は終わりました。

140年祭、祭典後の神殿講話で真柱様は「年祭に向かってのいわば非常時の歩みは終わった。これからは普段の歩みになっていくわけだが、普段といつても、三年前に戻ってしまったのでは何もならない。三年前の努力のうえに立った歩みを続けていかなければならないと思う。きょうは新たな歩み出しの日でもある。」とお話下さいました。

では、網走大教会に繋がる我々は、どこから歩み出したらよいのでしょうか。

そうです、すでにご発表頂いている、今年の活動方針は、「全ようぼくおちばがえり」です。大教会全体の実質のようぼく数は80名程、この方々全員におちばがえりして頂くとの取り組みです。

しかし、達成は並大抵な事ではありません。それぞれの教会でようぼくの方は、熱心に教会につとめられている方もおられれば、もう、何十年もお会いしたことのない方、不明という方も多くおられると思います。現実には教会にながっている方は、思うほど多くありません。

では「全ようぼくおちばがえり」どうすればよいのか。おつとめをつとめて願うしかない。ひたすら声をかけ、おちばがえりの魅力を伝えなければなりません。おちばがえりでご守護頂けるといふ真実を伝えなければなりません。

おちばというところは、どういうところなのでしょう。考えてみますと、人間が創造された地点にかなるだいが据えられ、親神様がお鎮まり下され、教祖が御存命でおられ

るところ。ちばを囲んで、世界が平和になるよう、陽気ぐらし世界実現めざして、よろづたすけのおつとめがつとめられる、かなるだいでのおつとめ、教祖殿での祈り、ここにご守護の種があるということとを伝えなければなりません。

どこにおちばの魅力があるのでしょうか。教理の本を読んでもみましたら、少年会発行の本に「おちばがえりは、親神様教祖がお喜び下さる行いである」という一節見つけました。そう、おちばがえりは親神様、教祖にお喜び頂こうとするのも目的でないでしょうか。たすけを願い、日々のお礼を申し上げ、ちばに伏せ込ませて頂いて自分の運命の根をこやすこと、だと思えます。

皆様方も、おちばがえりして神殿で身上者の平癒の願いお礼のおつとめをされた方も多いかと思えます。

私もそういう中で、かなるだ、おちばの神殿でおつとめをつとめ、教祖にお願いして、神様のご守護をお見せ頂いたことがあります。その話をさせて頂きます。

それは、今から7年前の1月10日。この日は出直して3年目の母の命日でした。教養掛でおちばにいた私は朝8時頃、札幌の姉から「今日は母の命日だねえ」と電話があり、切った瞬間に自教会の役員のお奥さんから電話が入りました。「入院している主人の心臓が止まった、病院に行きます」との衝撃的な内容でした。

「えっ、心臓が止まったって、死んだと言うことか？」驚きまして、網走にいる家内に電話をいれ、とにかく病院に走ってくれと頼みました。

この役員さんは、腸閉塞で入院していましたが、飲んだものが戻ってきて窒息を起こしたので。私は急いで神殿に走り、おつとめをつとめました。「何とかご守護頂きたい。もしだめだとしても、せめて東京にいる長男に死に目に合わせて頂きたい」と願いました。長男は仕事の関係から、5年も網走に帰って来ていなくて父親に会っていませんでした。何とか、父親に会わせてあげたかったのです。同じ頃、網走の病院では、

医者が心肺停止になった体に、心肺蘇生術を施しているところでした。心臓が止まってから1時間経っても息を吹き返すことがない状況から、お医者さんが、奥さんに「もう見込みがないのであきらめてほしい」と言いました。が、奥さんは「あばら骨折れてもよ

いから生き返らせて下さい」と、懇願。そばにいました家内は、お医者さんに神様のお祈りをして良いか聞きました。おさづけの取り次ぎです。お医者さんが了承してくれたので、家内はおさづけを取り次ぎ始めました。「なむたすけたまへてんりおうのみこと、なむたすけたまへてんりおうのみこと」、取り次ぎ終わると、何と息が吹き替えたのです。1時間、止まっていた心臓が動き出しました。奇跡です。なんと生き返ったのです。

お医者さんが言うには、「心臓は動き出しましたが、1時間心肺停止していたので数時間しか持たないでしょう」との説明でした。しかし、そのお陰で、東京

から駆け付けた長男と次男は、父親の意識は戻りませんでしたが、死に目に会うことができたのです。出直してしまいました

が、神殿、かなるだいでお願いした通りのご守護を頂くことができました。

生きて元通りに生活ができるようになることが、最大のご守護ですが、即死のところ、息を吹き返して息子たちに会うことができた、神様はならん中を死に目に合わせて下さる奇跡をお見せ頂きました。まさに、かなるだいでお願いしたことをお聞き届け頂いた実証です。

おちば、かなるだいで真剣おつとめは、正にお聞き届け頂けるんです。私たち信仰者は、目に見えない神様を心に抱き、常に神様を探し求めていると思います。「求道」と言いますよね。道を求める。増野鼓雪という方の講話の一説についてお話しします。この先生は、大正の時代、教祖40年祭、教勢倍化運動の頃に活躍された方です。増野鼓雪先生、この名前はペンネーム

というのでしょうか、賀号、

本名は増野道興と仰います。

先生が天理教校長として、別科生に話したお話の一文を読ませて頂きます。「われわれ人間の心と神様のお心との間には、理の通う道があつて、われわれの心へ神様のお心を、そのまま直覚できるに違いな

い。ところが不幸にしてわれわれには理が通わない。これは理の通う道に草が生えているからである。その心の草を刈り取って、道がどこにあるかを求めてゆかねばならぬ。そうすればわれわれの心に、神様のお心が自由に通うようになつてくる。

道を拓めるのも同じことで、人間から神様へ通ずる道を、綺麗にすればよい。その道を通りて神様はわれわれに、自由のご守護をしてくださる。道

を拓めるということが第一義ではない。道を開けることである。神様との道、上級との道さえ明らかにつけておけば、信徒はひとりで従いてくる。道を通るものは親との道、会長との道、上級との道を、円満につけておくことを、何より

先にせねばならない。」

との講話の一部を本で読みまして、私は感動しました。

神様を直覚できる、神様とはどんなお姿なのでしょう。か、正文遺韻抄という本に載っています。教祖は「神様はあ

ると言えば、ある。ないといえ、ない。願う誠から見える利益が神の姿やで」と仰っています。

例えば、身上たすけて頂きたいと神様に真剣に願い、その結果不思議なたすけを頂き、御守護に浴した時、これは神様の御守護に違いないと感じたこと、神様のお姿が心に浮かんでくるということです。

ご守護を頂けることイコール神様のお姿なのだと思います。直覚するということとは、御守護が見えるということだと思います。

教会は全世界に1万4千29カ所あります。私たちは、それぞれ同じいんねんの者が引き合つて、教会に所属している。つまり、1万4千通りのいんねんがある。上級、大教会と繋がっている。我々網走

につながる者は、似通ったいんねんを持つていると私は理解しています。

おちばと教会は一本の木で、根がおちばで枝へ、枝先へと教会は繋がっています。大教会を通して、おちばへと繋がっている。一人ひとり、理の親につながり、教会、大教会へ続く道を通して神様のお姿、御守護をお見せ頂けるシステムのなっているのではないのでしょうか。

だから、教会で掲げる心定めという道しるべ、繋がる大教会で掲げる心定めという道しるべ、おちばに向かう標識に添つて、歩むことが、神様にお会いできる、神様のお姿をみることができ、ご守護を頂けると思うのであります。

誰しも、幸せになりたい。私は、「幸せは、家族が元気で仲が良いこと」と思っています。この幸せというご守護を頂くには、旬の御用、心定め

に素直に努力させて頂くことだと思つてあります。「全ようぼくおちばがえり」。各教会にはようぼくの名簿があります。会長夫妻に任せることなく、所属の教会につな



参加者 大人16名
子供9名

節分行事
2月3日19時から大教会にて節分行事が開催された。豆まきをし鬼を追い払ったあと、導入ゲームで皆和んでから、毎年恒例のお菓子撒きをした。
また最後に、大カルタ大会がお年寄りから幼児まで真剣な眼差しでカルタに集中し取っていた。
上位者には表彰も行って大いに盛り上がった。

トピックス
よこびセミナーに参加して
●直轄 瀬川 陽一
研修会を受講される方々も色々な方がおられました。1日目、2日目、3日目となるたびに勇んできて、顔の表情も変わり、有り難さが伝わってきました。素晴らしい研修会でした。
「喜ばさずには帰されん」という講師の先生の思いが感じられました。
●直轄 田中 繁
講義の中では、大教会史が良かったです。これからも習いたい内容でした。
9月から修養科に入って、3ヶ月間勉強して来たいと思います。教祖140年祭目指して頑張りたいと思います。
●直轄 米田 裕子
新しいスタートは、年齢に関係なくいつでもできると感じました。
●實東 藤本 弘子
とても素晴らしく、楽しい有意義な講習を受けさせて頂きました。心も身体も軽くなった気がします。



節分行事
一人色々な悩んでも何の答えも出ないことに気付かされ、もっと早くに講習を受ければ良かったとつくづく感じさせられました。
地元に戻った際には、仲間にお話させて頂こうと思っております。修養科にも早く行きたいです。
●實東 三幣 輝子
教への素晴らしさを再確認しました。講師の先生方の熱意が伝わってくる講義でした。講義も大変わかりやすく、多くの人に勧めたいと思います。堅苦しくなく、楽しい雰囲気です。3日間仲間と共に学ばせて頂きました。この度、信

者さんの受講のおかげで一緒に練習できる、大変嬉しい講習会でした。
●東網 新井 琴音
練習合いの時間で聞かせて頂いたお話は、とても自分のためになる話だったり、私が話している中で自分自身が気付くこともあり、たくさん学びがありました。
修養科がとても楽しみです。(R7年6月受講者)
●誠網 伊藤 理絵
安心してまた生きていくことができると、陽気暮らしができそうな感じがしました。それを体感しました。当たり前にもっと感動、感謝したいです。
全てに神様の心を感じながら通らせて頂きたいと思えます。そして、たんのうの心で、ひのきしんをたくさんさせて頂き、たくさんおさづけを取り次がせて頂こうと思います。大教会の皆様、先生方、一緒に学ばせて頂いた皆様の素晴らしさにも感動でした。
●誠網 小笠原 敏子
受けられた方の顔が、爽や

節分行事
2月3日19時から大教会にて節分行事が開催された。豆まきをし鬼を追い払ったあと、導入ゲームで皆和んでから、毎年恒例のお菓子撒きをした。
また最後に、大カルタ大会がお年寄りから幼児まで真剣な眼差しでカルタに集中し取っていた。
上位者には表彰も行って大いに盛り上がった。

トピックス
よこびセミナーに参加して
●直轄 瀬川 陽一
研修会を受講される方々も色々な方がおられました。1日目、2日目、3日目となるたびに勇んできて、顔の表情も変わり、有り難さが伝わってきました。素晴らしい研修会でした。
「喜ばさずには帰されん」という講師の先生の思いが感じられました。
●直轄 田中 繁
講義の中では、大教会史が良かったです。これからも習いたい内容でした。
9月から修養科に入って、3ヶ月間勉強して来たいと思います。教祖140年祭目指して頑張りたいと思います。
●直轄 米田 裕子
新しいスタートは、年齢に関係なくいつでもできると感じました。
●實東 藤本 弘子
とても素晴らしく、楽しい有意義な講習を受けさせて頂きました。心も身体も軽くなった気がします。



立教189年人のご守護心定め

初席者	ようばく	修養科修了者	教人
46名	19名	12名	9名
成果 (2月末現在)			
4名	0名	0名	0名

網走大教会は1月28日、29日に出席させて頂き、28日は真柱様・奥様・大亮様ご夫妻が、一番近い目の前の席に座らせて頂いた。
会場では三千名ほどの教会長が祝宴を楽しみ中、真柱様・奥様・大亮様ご夫妻などが各テーブルをまわって下さり年祭活動のお労いを頂いた。
参加した教会長は、三年千日の年祭活動を終え、喜び心をもって教祖140年祭を迎えさせて頂き、満面の笑顔で次の塚に向けての思いを語り合った。

教祖140年祭御礼つとめ
教祖140年祭が執り行われた翌日の1月27日、教会長御礼参拝が勤められた。
これは、大教会長を始め部内教会長が、年祭活動3年間に頂いた御守護の御礼を、教祖の御前でさせて頂いたかどうかというもの。
当日は3年間の心定めの成果と、論議の実動報告の集計封筒を持参し、午後1時30分

教祖140年祭御招宴
教祖140年祭を終え28日から、教会長を対象に、真柱様・奥様・大亮様ご夫妻のご臨席を頂き御招宴が開催された。

教祖140年祭御招宴
教祖140年祭を終え28日から、教会長を対象に、真柱様・奥様・大亮様ご夫妻のご臨席を頂き御招宴が開催された。

網走大教会は1月28日、29日に出席させて頂き、28日は真柱様・奥様・大亮様ご夫妻が、一番近い目の前の席に座らせて頂いた。
会場では三千名ほどの教会長が祝宴を楽しみ中、真柱様・奥様・大亮様ご夫妻などが各テーブルをまわって下さり年祭活動のお労いを頂いた。
参加した教会長は、三年千日の年祭活動を終え、喜び心をもって教祖140年祭を迎えさせて頂き、満面の笑顔で次の塚に向けての思いを語り合った。

